

授業	【G】 国際経済論Ⅰ	区分	【G】3	【G】2
科目名	【H】 国際経済論Ⅰ	開講年次	【H】3	【H】2
	【I】 国際経済論Ⅰ	その他参照	【I】3	【I】2
科目区分	専門科目:教科及び教科の指導法に関する科目(---・公民--)			
授業形態	対面開講			
担当形態	単独	【G】 教員の免許状取得のための(---・公民必修-)科目		
		【H】 教員の免許状取得のための(---・公民必修-)科目		
施行規則に定める科目区分又は事項等	教科に関する専門的事項:「社会学、経済学(国際経済を含む。)」(高一種免公民)			
サブタイトル	問題演習を通じて国際経済の仕組みを理解する	担当者	小川 竜明	
授業概要	【概要】	<p>これまで、本科目を履修する学生の多くが教員志望者や公務員志望者であった。そこで、過去に教員採用試験や公務員採用試験で出題された問題を用いながら国際経済の仕組みを学ぶスタイルをとる。また過去問を使うことで、試験に合格するために暗記すべきものが明確になる。次の(1)~(4)を達成するため、予習(適宜配信される「ワークシート」にある問題を解いてくること)を必須とする。</p> <p>(1) 問題を解く作業を通じ、「わかるもの」と「わからないもの」に分けることができる。</p> <p>(2) 予習の段階で「わからなかったもの」や「わかったつもりでいたもの」に重きを置き、メリハリをつけて授業の説明を聞くことができる。</p> <p>(3) 「同じ間違いを繰り返さない」という復習の意味を見出すことができる。</p> <p>(4) 教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を知り、対策を立てることができる。</p> <p>「本科目を受講して良かった」と心から思える秘訣は、これらを完遂し、高い学習効果を得ることに尽きる。</p> <p>なお、国際経済論Ⅰでは、国際収支、国際金融(外国為替)、貿易を扱う。</p>		
	【到達目標】	<ul style="list-style-type: none"> ・経済の仕組みがわかり、国内外のさまざまな経済事象や経済問題について、自分の頭で考え、自分なりの答えを出し、さらにそれを自分の言葉で説明できるようになる。 ・物事を深く、且つ多面的に捉えられるようになる。 ・教員採用試験や公務員採用試験の出題方式や出題傾向を把握し、今後の学習計画が立てられるようになる。 		
履修条件	<p>授業中は、私用でスマートフォンやタブレット型端末、ウェアラブル端末、パソコンなどに一切触れず、真摯な姿勢で授業に臨む強い意志があり、予習と復習を欠かさず行うこと。新聞の経済欄に目を通すことを習慣とし、最新の経済動向を追うこと。且つ次の(1)、(2)の両方またはいずれかに該当する者。</p> <p>(1)教員、国家公務員または地方公務員(警察官、消防官を含む)を志し、採用試験に合格するためならば、いかなる努力も惜しまない者。</p> <p>(2)経済に関心があり、経済について限りなく深く分かろうとする気概を持つ者。</p>			
アクティブラーニングの方法	【○】 事前学習型	【-】 反転授業	【-】 調査学習	【-】 フィールドワーク
	【-】 双方向アンケート	【-】 グループワーク	【○】 対話・議論型授業	【-】 ロールプレイ
	【-】 プレゼンテーション	【-】 模擬授業	【-】 PBL	【-】 その他
ディプロマ・ポリシーとの関連性	DP(ディプロマ・ポリシー)①	- (当てはまらない)		
	DP(ディプロマ・ポリシー)②	- (当てはまらない)		
	DP(ディプロマ・ポリシー)③	◎ (よく当てはまる)		
	DP(ディプロマ・ポリシー)④	- (当てはまらない)		
他科目との関連性	<p>①あらかじめ履修を済ませてほしい科目:経済学Ⅰ、経済学Ⅱ</p> <p>②同時に履修することが望ましい科目:特になし</p> <p>③当該科目を履修した後で履修してほしい科目:国際経済論Ⅱ</p>			
教科書	<p>教科書は使用しない。</p> <p>教材(問題を掲載したワークシート)や資料(経済の仕組みや問題の解説等を載せた授業で使用するもの)は全てGoogle Classroomを通じて配信する。毎回授業が始まる前にGoogle Classroomにアクセスし、資料を各自で印刷して授業に持ってくる(教室でこれらを配付することは無い)。</p> <p>教材や資料は、原則として授業後1週間が経過するとGoogle Classroomでの公開を取り消すので、小忠実にGoogle Classroomにアクセスすること。</p>			
参考書	<p>〈国際収支〉棚瀬順哉『国際収支の基礎・理論・諸問題』財経詳報社、2019年。</p> <p>〈国際金融〉西村陽造・佐久間浩司『新・国際金融のしくみ』有斐閣、2020年。</p> <p>〈貿易〉大川良文『入門 国際経済学(第2版)』中央経済社、2024年。</p> <p>その他、授業内で適宜紹介する。</p>			
評価方法	<p>下記の(1)小テストまたはミニレポート(39点)、(2)学習到達度確認テスト(61点)の結果を総合的に勘案し評価する。</p> <p>(1)小テストまたはミニレポートは第2回から第14回までの間に行う。</p> <p>・小テストおよびミニレポートはその日に学習した内容の理解度を測るものである。</p> <p>(2)学習到達度確認テストは、授業で修得した経済の仕組みをベースに、経済問題について自身の考えを論述する(論述内容に応じて得点を付与)。</p> <p>小テストおよび学習到達度確認テストは、配付した資料やノート、スマートフォン等の電子機器類の持込みをすべて「不可」とする。</p>			
フィードバック方法	<p>小テスト(ミニレポート)のうち、誤答(誤解)が多く見られるものについては別途解説を行う。</p> <p>解説が多くなると、その分だけ下の授業内容は変更することになる。</p>			
評価基準	<ul style="list-style-type: none"> ・授業内容について、これをよく理解し、答案等に自分の言葉で適切に表現できた者にはその程度に応じて「S」または「A」を与える。 ・単元の内容についての理解や表現に、何らかの不適切ないし若干不足する点がある者はその程度に応じて「B」または「C」とする。 ・単元の内容についての理解自体が不十分な者はその程度に応じて「D」または「E」とする。 ・学習到達度確認テストに欠席するなど、評価不能の場合は「F」とする。 			

授業 科目名	【G】	国際経済論 I	区 分	開講年次	【G】3	単位数	【G】2
	【H】	国際経済論 I	その他参照		【H】3		【H】2
	【I】	国際経済論 I			【I】3		【I】2
授業回数	授業内容						
1	Part.0【オリエンテーション】、Part.1【国際収支】(1)―国際収支が表すものは何かを知り、国際収支の重要性を理解する 予習： シラバスを熟読し疑問に思ったことをメモしておく(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
2	Part.1【国際収支】(2)―「経常収支」「資本移転等収支」「金融収支」の関係を押さえる 予習： ワークシート[2]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
3	Part.1【国際収支】(3)―「経常収支」を構成する「貿易・サービス収支」「第一次所得収支」「第二次所得収支」を理解する 予習： ワークシート[3]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
4	Part.1【国際収支】(4)―「資本移転等収支」、及び「金融収支」を構成する「直接投資」「証券投資」「外貨準備」を理解する 予習： ワークシート[4]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
5	Part.1【国際収支】(5)―各収支の「黒字」や「赤字」が意味するものを理解する 予習： ワークシート[5]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
6	Part.1【国際収支】(6)―「投資・貯蓄バランス」や「国際収支発展段階説」を理解する 予習： ワークシート[6]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
7	Part.2【国際金融】(1)―「内国為替」と「外国為替」の違いを理解する(その1:内国為替) 予習： ワークシート[7]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
8	Part.2【国際金融】(2)―「内国為替」と「外国為替」の違いを理解する(その2:外国為替) 予習： ワークシート[8]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
9	Part.2【国際金融】(3)―外国為替相場(為替レート)が変動するとどのような影響があるかを考察する 予習： ワークシート[9]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
10	Part.2【国際金融】(4)―外国為替相場(為替レート)が変動する要因を押さえる(その1:国内外の金利に注目する) 予習： ワークシート[10]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
11	Part.2【国際金融】(5)―外国為替相場(為替レート)が変動する要因を押さえる(その2:通貨当局による外国為替市場への介入) 予習： ワークシート[11]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
12	Part.3【貿易】(1)―リカードが唱えた「比較生産費説」の学習を通じ貿易のメリットを理解する 予習： ワークシート[12]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
13	Part.3【貿易】(2)―GATTの成立からWTOに発展改組されるまでの歴史を押さえ、貿易のルールを理解する 予習： ワークシート[13]の問題を解く(15分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(165分)						
14	Part.4【講義のまとめと応用】(1)―わが国の課題について考察する―「デジタル赤字」「トランプ関税」など 予習： 今まで学んだことを振り返る(60分) 復習： 学んだことを500字程度にまとめ、教員になったつもりで今回の授業の再現を試みる(120分)						
15	Part.4【講義のまとめと応用】(2)―わが国の「強み」は何かを考察する(30分)、学習到達度確認テスト(60分) 予習： これまで学習した内容を振り返る(180分) 復習： この授業で身につけたものを反芻する						
その他	<ul style="list-style-type: none"> 履修者が確定次第、座席指定制を導入する。座席表にしたがい着席すること。 真摯に授業を受ける学生の志気を下げようとする以下の行為を行う者には退室を命じるなど、厳正に対処する。 教室中に響く深い溜め息、大あくび、居眠り、私語、私用でスマートフォンやタブレット型端末、ウェアラブル端末、パソコン等を使用する など ※G・H・I:【選択必修修(サ)】						